

令和元（平成 31）年度事業報告書

公益財団法人日本シルバーボランティアズ

1. 派遣事業（公1）

1) 一般地域への派遣事業概要

派遣国並びに派遣者総数は、ベトナム 22、タイ 4、カンボジア 4、ミャンマー 3、ネパール 2、中国（上海）1、パラグアイ 2 の 38 名であった。

派遣専門分野は、日本語教師 36 名、派遣調査 2 名であった。

今後とも、限られた派遣費用の有効利用を図るための諸施策の検討、会員の高齢化に対応して若手会員の獲得に努める事等に留意しつつ、引き続き日本との経済・文化面の関係が深い東南アジア諸国を中心に、日本文化への憧憬の深い南米諸国にまで、広く各国からの当財団ボランティアへの期待に応えるべく、派遣を継続して行きたい。

2) 中国への派遣事業概要

令和1年度の派遣実績は18件（計画は34名）と大幅減に留まった。実行したのは、従来同様の農業関連を主に、果樹のイチゴ、リンゴ、ブルーベリー等、その他土壌、造園、有機肥料、お茶、会議、人材交流会等の項目にて派遣を実施した。派遣先順位は安徽省、陝西省、江蘇省、河北省、山西省、河南省等合計12省・市に及んでいる。中国側窓口の中国科学技術交流中心の管理官庁である中国科学技術部と国家外国専門家局が合併して2年が経過、昨年後半より一部であるが科技庁の名前で活動を開始している省もある。

中国側予算は緊縮状態が継続しており、到着項目件数は大幅に減少し実質36件となった。JSV会員の高齢化、新規会員の増加も僅かで、来年度項目に関しても本年同様に厳しい環境と予測している。本年1月に湖北省武漢市にて発生した新型コロナウイルスにより本年2-3月の派遣は勿論、年内の派遣業務も再開の見通しが見えない状況となっている。北京科技中心も輪番当直制にて各部署1人の勤務となり、事実上業務は停止中。3月末現在日中双方が新型コロナの影響で、見通しも立たない状態が続いている。但し、北京よりは2021年度も事業継続が可能な様に事務局・会員共に元気に待っていて欲しいとの意向がもたらさせている。

3) 国別派遣者数

東アジア	19名	(中国 19名)
東南アジア	35名	(ベトナム 22名、タイ 4名、カンボジア 4名、 ミャンマー3名、ネパール 2名)
南米	2名	(パラグアイ 2名)
合計	56名	(法人開設以来の派遣者数 5043名) (平成 30 年度 68名 平成 29 年度 78名 平成 28 年度 71名)

4) 費用負担別派遣者数

中国	18名	(案件) (中国科技交流中心扱 18名)
法人の助成	36名	(霞会館 13名、尚友倶楽部 23名)
その他	2名	(自己資金 2名)

5) 部門・分野別派遣者数

農林・水産部門	15名	果樹・果物 8 土壌肥料 4 茶 1 樹木・造園 2
建築・土木部門	0名	
鉱工業・技術部門	0名	
社会教育文化部門	0名	
日本語教育部門	36名	日本語教師
調査・業務部門	5名	中国会議・人材交流会、ミャンマー調査等
合計	56名	

2. 登録業務 (公1)

専門分野別	人数 () 内女性			年齢別	人数 () 内女性		
農林・水産	50	(1)	28.4 %	80歳以上	27	(4)	15.3 %
建築・土木	5	(0)	2.8 %	70歳代	66	(12)	37.5 %
鉱工業・技術	26	(1)	14.8 %	60歳代	33	(7)	18.8 %
経済・経営	9	(0)	5.1 %	50歳代	9	(4)	5.1 %
医療・保健・衛生	3	(2)	1.7 %	40歳代	14	(8)	8.0 %
社会・教育・文化	10	(7)	5.7 %	30歳代以下	27	(20)	15.3 %
日本語教育	73	(44)	41.5 %				
合計	176	(55)	100.0 %	合計	176	(55)	100.0 %

(平成 30 年度 218名 平成 29 年度 254名 平成 28 年度 297名)

3. 事業推進に係る内外諸機関・団体との協力、交流、情報交換等（公1）

専門家派遣事業に係る内外諸機関・団体との協力、交流、情報交換等につき、以下の活動を行った。

（1）一般地域派遣：島村理事担当

1）ミャンマー

当財団として、財政支援を頂いている、SEA社のマンダレーJSC校を訪問し、日本語教育の現状視察、日本語教師の派遣之可能性等につき意見交換を行った。（8月）

2）上海

日本語教育の現状視察及び関係者と意見交換を行った。（11月）

（2）中国派遣：担当荻野理事

1）中国科学技術部 張建国 副部長来日 懇談会

当財団の会員もまじえ懇談し懇親を深めた。（4月）

2）日本技術士会定例総会・懇親会

中国への派遣の意見交換・懇親を深めた。（6月）

3）甘肅省JSV総会・温州人材交流会

現地関係者と打ち合わせ派遣の発掘に努めた。（9，10月）

4）孔 中日大使との懇談会

当財団からは、中国国家友誼賞受賞会員4名を含め、7名が招待され、有益な懇親会となった。

4. 助成金・寄付金・賛助金について（公1）

（1）助成金、賛助金、寄付金等による支援を頂いている関係団体、企業等を往訪の上、謝意表明及び要請を行った。

5. 広報事業（公1）

（1）会報「JSV NEWS」No.95（2019年5月）及びNo.96（2019年11月）を編集、発行し当財団を支援頂いている関係機関、団体、企業、会員その他個人の方々に広く配布し、公益財団法人としての活動内容の周知に努めた。

（2）今後とも、引き続き機会を捉え新聞等のマス・メディアを通じた広報を模索したい。

6. 総務事項

1) 内閣府（公益認定等委員会）関係

(1) 「公益社団法人及び公益財団法人の認定に関する法律」第22条第1項に基づく定期提出書類（電子申請方式による）

- ①平成30年度事業報告等に係る提出書—令和元年6月20日に提出
- ②令和2年度事業計画書等に係る提出書—令和2年3月2日に提出

2) 理事会・評議員会報告

(1) 理事会について

①平成31年度第1回理事会（平成31年4月26日）

- 1. 平成30年度事業報告書を承認可決した。
- 2. 平成30年度貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録を承認可決した。
- 3. 令和元年度定時評議員会の招集を承認可決した。
- 4. 理事長の職務執行状況報告がなされた。

②令和元年度第1回理事会（令和元年5月22日）

- 1. 代表理事（理事長）の選定を行った。

③令和元年度第2回理事会（令和2年2月10日）

- 1. 令和2年度理事の報酬額を承認可決した。
- 2. 令和2年度基本財産の一部勘定振替を承認可決した。
- 3. 令和2年度事業計画書を承認可決した。
- 4. 令和2年度収支予算書を承認可決した。
- 5. 令和元年度第2回評議員会の招集を承認可決した。
- 6. 理事長の職務執行状況報告がなされた。

(2) 評議員会について

①令和元年度定時評議員会（令和元年5月22日）

- 1. 平成30年度貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録を承認可決した。
- 2. 理事、監事の選任を承認可決した。
- 3. 平成30年度事業報告がなされた。
- 4. 理事長の職務執行状況の報告がなされた。

②令和元年度第2回評議員会（令和2年2月25日）

1. 令和2年度理事の報酬額を承認可決した。
2. 基本財産の一部勘定振替を承認可決した。
3. 令和2年度事業計画書を承認可決した。
4. 令和2年度収支予算書を承認可決した。
5. 理事長の職務執行状況の報告がなされた。

3) 役職員の現況について

期末現在の評議員数6名（非常勤）

理事数4名（内常勤3名）

監事数1名（非常勤）

参与数1名（非常勤）

4) 附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要事項」が存在しないので作成しない。

以 上